様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１３１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０７６１

研究課題名（和文）典籍に関わる史資料の悉皆的調査を踏まえた古代知識・思想構造の総合的研究

研究課題名（英文）A comprehensive study of ancient knowledge / thought structure based on exclusive investigation of historical materials related to the text

研究代表者
中林　隆之（Nakabayashi, Takayuki）

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：３０３８２０２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：10世紀以前に請来した典籍の大枠を把握するために、仏典や漢籍名が記載された目録群の内容を比較検討し、類別・整理したデータベースを作成した。 その結果、テキストの請来ルートの系統としては、中国とともに朝鮮半島からの請来が一定の比重を占めたことを解明できた。また請来典籍が古代国家の知識・思想編成に果たした役割とその変遷について、華厳宗や密教などの宗の再編成などの事例から研究を進めた。また請来された典籍の地方への普及と活用の一端を、平安期以降の北陸地域の事例から明らかにした。なお典籍目録群のデータは公開準備中である。

研究成果の概要（英文）：In order to grasp the outline of the texture brought before the 10th century, we compiled and examined the contents of the catalog group in which the Buddhist scriptures and Chinese names were listed, and created a classified and organized database. As a result, it turned out that the Korean Peninsula route, together with China, occupied a certain gravity as a line of the route which the text was brought. In addition, those of classical books is about the role and its transition played in knowledge and ideological organization of the ancient nation, was conducting research from cases such as the reorganization of the sect, such as Kegon and esoteric Buddhism. Furthermore, the situation of dissemination and utilization of text to rural areas was clarified from the case of the Hokuriku area after the Heian period. The data of the catalog of categories is being prepared for publication.

研究分野：人文学・史学・日本史

キーワード：古代史　経典目録　仏典　華厳経　漢籍　東アジア世界　データベース

１．研究開始当初の背景

日本古代の宗教・知識体系の国家による編成や、地方への知識の波及を総括的に把握するための前提作業として、古代の史資料で確認できる典籍類の悉皆的な把握が必要である。一方、基本的に舶載典籍を受容することで形作られた古代の思想・知識構造の把握のためには、つねに拡張・更新され続けたそれら舶載典籍の請来ルートとその内容や請来の担い手の性格を把握することが求められる。それらの作業は日本古代の「知」をとりまく国際的環境の様相を具体的に解明することにつながるからである。そのため知的資産（典籍群）の東アジアからの流入過程や、その流入ルートの特徴とその時代的変遷のありかたを解明していく。その際、諸国家間を往来した公的使節の動向のみならず、東アジア諸地域と交流を重ねるなかで典籍を請来した8世紀以降の僧侶等らの動向を詳細に解明していくことも重要である。これらを踏まえ、請来された典籍の内容を一点ずつ精査し、典籍類が中央権力の仏教教学編成や思想・学術の統合事業に及ぼした意義を跡づけることが課題となる。

他方、集積された典籍類とその列島各地への拡散・分配が列島内各地に与えた影響についての検討も、古代の知識・思想構造やその変遷の把握のためには必要である。この点の解明のための事例研究として、とくに北陸地域への典籍の流布とその受容、および地方での受容された思想の中央への反作用などについて考察する。

２．研究の目的

本研究は、日本古代に所在した諸典籍について、10世紀以前の典籍の所持（蔵書）と流布状況を悉皆的に調査し、データベース化して公表していく。その作業を通して、7－10世紀の諸史料中の諸典籍の所持主体・保管と管理、貸借関係や書写のありかたについて検討し、テキストの系譜と日本列島での伝播を、社会的基盤と地域的偏差、時代的推移を考慮して明らかにしていく。それらを踏まえ東アジア世界の中での日での仏教を軸とした思想の伝播と統合の過程を解明することを目的とする。

３．研究の方法

10 世紀以前の日本列島に所在する典籍類について悉皆的に把握するため、仏典については、寺院資財帳、請来仏典目録に掲載された経典類を網羅的に整理したデータベースを作成する。漢籍類についても、六国史や法制史料に書名が明記されているものを拾い上げる。それらの作業を踏まえて中央国家機構・寺院・貴族層らの蔵書の実態と管理方式を解明する。それに並行し、請来された典籍類の列島での活用やその結果としての中央－地方での知識・思想・宗教状況の変容について、史料にそくして考察していく。

４．研究成果

（1）平成26年度

①正倉院文書中の典籍目録群のデータ整理と検討、とりわけ内裏を中心とした国家機構・有力貴族・寺院・留学僧らの典籍の所蔵状況を確認した。その結果、8 世紀半ばごろまでの典籍では、仏典・漢籍を問わず新羅からの請来典籍の占める比重が従来の想定以上に高いことを明らかにし、その成果を学術論文として公表した。②正倉院文書中の諸典籍目録の復原・整理や平安期の章疏録との比較検討を通して、華厳経関連典籍の古代国家の宗教政策上に占める位置の重要性について示した研究発表を2度の国際シンポジウムで行い、その概要を予稿集に収録した。③研究分担者（後藤真）は、正倉院文書データベースのデジタル化に関わる学術論文を公表した。④研究代表者および 2 名の分担者は、平安期における仏教系典籍の社会的流布の特質をさぐる事例研究の一環として、加賀温泉寺周辺を現地調査した。そして研究代表者はその成果の一端をもとに、古代北陸道地域への文字・仏教文化の受容と変容について論じた研究発表を行った。

（2）平成27年度

①仏典目録群のデータベース化作業の過程で、古代仏教の中で教学面で基軸的な位置をしめた華厳宗の教学上の特質を、8～10 世紀の経典目録類を比較検討することで示し、学術論文として公表した。②また平安前・中期の華厳宗の新展開の様相を、華厳宗の学僧道雄による年分度者制度の拡充と、山城国海印寺およびその子院（法勝院）の整備の動向や、古代王権の宗教政策との関係から提示した。そのうえでこれを新羅王権による伽耶山海印寺創設や新羅華厳宗の整備の動向と比較することで、日本華厳宗の特徴や当該期の王権の宗教的指向性を解明した学術論文として結実させた。検討の結果、平安前・中期においても日本王権は、唐－中国江南王朝のみならず、新羅－高麗王権の宗教政策の動向を強く意識していたことを示すことができた。③一方、請来経典の入手ルート特定のための検討作業の一環として、入唐八家のうち、とくに最澄・円珍らの滞在・寄港地である、江南諸地域の寺院群や関連遺跡、具体的には天台山国清寺・方広寺・龍興寺・峰山道場、近隣の博物館などを見学調査した。④また、上記の調査巡見の過程で、浙江大学人文学院西渓田家炳書院211室にて研究発表を行うことができた。⑤さらに研究分担者（遠藤慶太）は、関連する学術論文集（著書）を刊行した。

（3）平成28年度

最終年度にあたる今年度は、研究総括のための打ち合わせを行い、平成 26 年度以来進めてきた、諸典籍データの蒐集・類別・データベース化の作業のまとめに入った。

①9 世紀の入唐僧らが作成した「入唐八家請来典籍目録」（ただし宗叡の目録を除く）および9世紀末～10世紀初めに作成された「安然録」に掲載された諸典籍のデータベースをそれぞれ作成した。またそれら両者の掲載典

籍と「五宗録」および正倉院文書の「布施勘定帳」に掲載された典籍群とを比較して、それぞれの相互関係（重複・掲載・未掲載など）を検討し、請来典籍の特徴を把握した。その結果、八家のうち空海・円仁・円珍・円行らの請来典籍は密教典籍が大きな比重を持ったが、他方、最澄の天台典籍請来の他、常暁・円仁・円珍についても奈良時代以来および未請来の顕教典籍を多数請来していたことが判明した。そのうち常暁の請来典籍類は、各宗の学頭の要請をうけて請来したものを多く含んでいたことも確認できた。あわせて 8－10 世紀の寺院資財帳群に見える典籍群のデータベースも作成し、寺院での典籍の所蔵状況を大枠的に捉えた。②漢籍類のうち六国史に書名がうかがえるものについても研究分担者（遠藤慶太）を中心にデータ化を進めた。③以上の仏典の典籍目録群・資財帳群・漢籍データについては、研究分担者（後藤真）を中心として公開のための準備を進めている。④研究代表者および研究分担者（遠藤慶太）は、それぞれ関連する学術論文・著書をまとめた。⑤また研究代表者は、関連する学術講演を 2 度行い、中央由来の仏教思想の地方への伝播と地方での受容、およびそれらに伴う思想の変容の動向について、越後・佐渡を対象とした事例研究を進め、その成果を講演にて発表した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計　8 件）
1. 遠藤慶太、遷宮と六国史－餝金物・神宝の奉献から－、塚口義信博士古稀記念日本古代学論叢、査読無（依頼）、2016、pp105-114
2. 中林隆之、平安前・中期の華厳宗と古代王権、古代文化、査読有、67－4、2016、pp1-18
3. 佐藤貴文、後藤真、木村文則、前田亮、歴史資料からの人文系研究者への注釈候補の提示手法の構築、査読無、情報処理学会シンポジウム論文集、2015、pp165‐172
4. 中林隆之、『華厳経』と日本古代国家、WASEDA RILAS JOUNAL、査読無（依頼）、No3、2015、pp351-358、www.waseda.jp/flas/rilas
5. 後藤真、人文社会系大規模データベースへの Linked Data の適用 －推論による知識処理－、情報知識学会誌（査読有）、25－4、2015、pp291-298
http://doi.org/10.2964/jsik_2015_025
6. 中林隆之、日本古代の「知」の編成と仏典・漢籍－更可請章疏等目録の検討より－，国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、194、2015,pp147-170,http://id.nii.ac.jp/1350/00002213/
7. 中林隆之、『華厳経』と日本古代国家、日中韓シンポジウム仏教文明の拡大と転回 要旨集、査読無、2014、pp77-84
8. 後藤真、正倉院文書のデジタル化の意義と課題 SOMODA の改善データベース作成過程に即して、国立歴史民俗博物館研究報告，査読有,192,2014,pp193-206
http://id.nii.ac.jp/1350/00002184/

〔学会発表〕（計　9 件）
1. 中林隆之、古代越後・佐渡における政治文化の展開、新潟郷土史会（新潟県新潟市），2017 年 1 月 8 日
2. 中林隆之、佐渡国分寺の造営とその前後、新潟大学人文学部・佐渡市教育委員会連携事業講演会（招待講演）、トキの村元気館（新潟県佐渡市）、2016 年 11 月 5 日
3. 後藤真、日本古代史料知識情報のリンクと課題、本科研研究会、大阪アウィーナ談話室（大阪府大阪市）、2016 年 10 月 30 日
4. 遠藤慶太、国史にみえる漢籍、大阪アウィーナ談話室（大阪府大阪市）、本科研研究会、2016 年 10 月 30 日
5. 中林隆之、「五宗禄」と「入唐八家請来目録」・「安然録（八家秘録）」、本科研研究会、大阪アウィーナ談話室（大阪府大阪市）、2016 年 10 月 30 日
6. 中林隆之、古代東アジアと日本の仏教、「日本古代史研究の新潮流」研究会（招待講演）、浙江大学人文学院（中華人民共和国浙江省杭州市）、2015 年 10 月
7. 中林隆之、古代越後・佐渡の政治文化と東アジア世界、新潟大学人文学部・愛媛大学法文学部・岩手大学人文社会学部三大学交流シンポジウム 地域から見た古代日本（招待講演）、新潟大学附属図書館ライブラリーホール（新潟県新潟市）、2014 年 11 月 29 日
8. 中林隆之、日本古代国家と『華厳経』、BK21PLUS 海外碩学招請特講（招待講演）、成均館大学 600 周年記念館(大韓民国ソウル)、2014 年 11 月 8 日
9. 中林隆之、『華厳経』と日本古代国家、日中韓国際シンポジウム 仏教文明の拡大と転回（招待講演）、早稲田大学文学学術院大会議室（東京都新宿区）、2014 年 10 月 25 日

〔図書〕（計 4 件）
1. 杉本一樹、佐々田悠、飯田剛彦、門井直哉、野尻忠、竹内亮、遠藤慶太、吉川真司、中林隆之、吉江崇、飯塚聡、斎木裕子、熊谷隆之、佐藤泰弘、久野修義、横山裕人、小原嘉記、板東俊彦、栄原永遠男、渡部陽子、濱道孝尚、古市晃、鷺森浩幸、東大寺の新研究 ２ 歴史のなかの東大寺、法蔵館、2017、735 頁(分担 pp209-230,pp263-287)
2. 遠藤慶太、六国史 日本書紀に始まる古代の「正史」、中央公論新社、2016(ISBN：978-4-12-102362-9)、248 頁
3. 鶴見泰寿、三好美穂、菱田哲郎、橋本英将，菅谷文則、青木敬、大西貴夫、須藤好直、田中泉、岩下淳、光谷拓実、奥健夫、高妻洋成、降旗順子、脇谷草一郎、田村朋美、中井泉、阿部善也、井上暁子、藪内佐斗司、松田誠一郎、仲裕次郎、山田修、鈴木一議、石田由紀子、原田憲二郎、木村理恵、上原真人、

栄原永遠男、高橋照彦、吉川聡、後藤真、佐藤貴文・木村文則、前田亮、複数の研究者による史料注釈を可能とするWEBシステムの可能性、東大寺の新研究１ 東大寺の美術と考古、2015、611頁（分担pp595-611）
4. 遠藤慶太、日本書紀の形成と諸資料. 塙書房, 2015.02,357頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
中林 隆之（NAKABAYASHI,Takayuki）
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：30382021

(2)研究分担者
後藤 真（GOTO,Makoto）
人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館・准教授
研究者番号：90507138

遠藤 慶太（ENDO,Keita）
皇學館大学・研究開発推進センター・准教授
研究者番号：90410927

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）